

平成28年度

事業計画書

公益財団法人三重北勢地域地場産業振興センター

はじめに

我が国の景気は、中国をはじめとする新興国経済の減速が輸出や生産に影響があるものの、内需の堅調及び資源価格の下落などにより企業収益が高水準で推移し、雇用・所得環境の改善が続いていることから緩やかな回復を続けており、先行きについても緩やかな回復が見込まれています。

国では、平成 24 年 12 月に発足した第二次安倍政権が打ち出した経済政策であるアベノミクスが進められてきて、昨年 10 月に「一億総活躍」社会の実現のため、「新・三本の矢」の政策が掲げられたところです。「新・三本の矢」のひとつに「希望を生み出す強い経済」を挙げ、雇用改善や賃金上昇さらに「目に見える地方創生」によって「経済の好循環」の拡大を目指しています。また、平成 28 年 2 月には環太平洋連携協定（TPP）の署名が行われたことから、国内農林水産業への影響が懸念される一方で、輸出産業にとっては大きな商機に繋がる可能性があり、適切な対応が求められています。

当財団としては、三重県北勢地域を創生する一翼を担い、地域経済の活性化に向けて、三重県、四日市市をはじめとする地方公共団体及び商工会議所、商工会、地場産業団体等の関係機関と緊密に連携し、より一層、地場産品 P R 事業等を推進し、地場産業の振興に努めてまいります。

- I 地場産業振興事業（公益目的事業1） （事業費 67,407,899円）
1 地場産品PR事業 （事業費 53,573,486円）

(1) 名品館事業（時期：通年）

三重県北勢地域の地場産業を取り巻く環境は、消費者ニーズの多様化や安価な輸入品の増加などにより厳しい状態が続く一方で、国際的な環境変化として資源価格の下落や環太平洋連携協定（TPP）の署名などがあり適切な対応が求められている。

このような状況の中で「地場産品のPR」を推進するためには、地場産品を実際に使っていただくことが必要であり、じばさん三重1階名品館において地場産品の総合展示場として5,000点を超える地場産品を集積、展示し、普及と知名度アップに努める。また、各種地場産品の体験コーナーなどを適宜設置し不特定多数の方にPRを行っていく。

主な事業内容として、じばさん市の名称で、季節ごと（年8回）に地場産品のPRを行う。さらに年間事業として、開館記念感謝セール、グランドセール等を開催し、不特定多数の方に実際に使用してもらうことを目的として、お値打ちに提供し、その良さを認識してもらい、地場産品の普及を図るべくPRに努める。

（名品館全体の売上目標：75,500,000円）

・名品館のイベント（開催予定）

① じばさん市（8回）

「新茶フェア」平成28年5月7日（土）、8日（日）

「手延めんまつり」6月29日（水）～7月3日（日）

「鈴鹿墨展」7月30日（土）、31日（日）

「鈴鹿の物産&ごま製品フェア」10月1日（土）、2日（日）

「お歳暮フェア」11月19日（土）～12月18日（日）

「うどん・きしめんまつり」12月3日（土）、4日（日）

「新春福袋フェア」平成29年1月4日（水）～8日（日）

「ザ・銘菓 匠の技と味まつり」1月29日（日）

② 開館記念 感謝セール 平成28年7月29日（金）～8月4日（木）

③ 春のときめきフェア 平成29年2月15日（水）～3月15日（水）

（確定申告会場に伴う出張販売会）

④ 名品館グランドセール '17 平成29年3月4日（土）～12日（日）

（春の都まんじゅうまつり同時開催）

(2) 展示会の開催及び出展（時期：平成28年5月～平成29年3月）

大都市圏でのPR活動を名古屋で6回ほど、東京で3回ほど実施する。

また、四日市市などの構成団体が大都市圏で実施するイベントには積極的に参加していくほか、関西方面については三重県や四日市市等から情報を得て、PR効果が

得られると判断すれば、出展について検討する。

<名古屋 開催予定>

名古屋の金山総合駅での事業は、イベント開催回数を昨年度と同じく6回とし、季節商品PRのテーマを設け、各回のテーマを5月：新茶、7月：大矢知手延素麺・冷麦、9月：秋の名産品、11月：土鍋と菓子、12月：歳末市、3月：新酒とし、テーマを中心に一般消費者に向けてPRを行う。

- ①三重県北勢地域の地場産品フェア (part1) 新茶まつり
平成28年5月17日(火)、18日(水)
- ②三重県北勢地域の地場産品フェア (part2) 手延めんまつり
平成28年7月12日(火)、13日(水)
- ③三重県北勢地域の地場産品フェア (part3) 秋の名産品まつり
平成28年9月上旬
- ④三重県北勢地域の地場産品フェア (part4) 土鍋&菓子まつり
平成28年11月上旬
- ⑤三重県北勢地域の地場産品フェア (part5) 歳末市(正月用品大販売)
平成28年12月上旬
- ⑥三重県北勢地域の地場産品フェア (part6) 新酒まつり
平成29年3月中旬

<東京 開催予定>

東京での事業は、主催事業として新宿駅西口広場イベントコーナーで地場産品のPRを実施し、この地域の地場産品普及につなげていく。さらに、四日市市が東京都庁や東京日本橋プラザビル前などで行う予定のイベントに参加しPRを行う。

- ① 四日市市・津市 観光と物産フェアへ出展
平成28年6月16日(木)、17日(金) 第1候補予定 2日間
(日本橋プラザビル前)
- ② 四日市市・津市 観光と物産フェアへ出展
平成28年9月21日(水)～27日(火) 7日間(東京都庁)
- ③ 三重県北勢地域の地場産品フェア '16(主催事業)
平成28年10月12日(水)～14日(金) 3日間
(新宿駅西口広場イベントコーナー)

<北勢地域 開催予定>

構成地域内でのイベントへの参加については、4月の四日市市での「エキサイト四

日市バザール」を皮切りに5月の四日市市での「萬古まつり」や10月の桑名市での「くわな商工まつり」、11月の亀山市での「東海道関宿街道まつり」、東員町での「東員町農業祭」等に出展し、PRを行う。

(3) 地場産業めぐり事業 (時期：平成28年7月～平成29年3月)

参加者を公募し、地域に基盤をおく企業の生産現場(工場等)を年4回(7月、9月、11月、3月)訪問し、各分野の専門家の話を聞くことで、地場産品に対する理解を深めてもらう。このことにより、地域内外の不特定多数の方に地場産品への関心を持ってもらい、消費を促すことによって地場産業の振興と地域社会の健全な発展に寄与する。

2 人材養成事業 (事業費 8,029,598円)

地場産業界が抱える課題や業界の動向を踏まえ、後継者育成等支援策となる講座を開催することによって、業界全体の底上げを図る。講座開催の趣旨は、地域に基盤を置く企業経営者及び後継者に対して、経営戦略、マーケティング等の理論、事例等を紹介し、経営者自身の意欲や才能を引き出すことにより、地域全体の産業活性化につなげることを目的としている。

さらに、次世代を担う子供達に対し、三重県北勢地域の地場産業及び伝統工芸品に対する認識を深め、将来の地場産業の発展への一助とする体験を重視した講座を実施する。

(1) 地場産業経営支援セミナー

多くの課題を抱えている地場産業界の中にあって、企業経営者のスキルアップが重要になっており、経営戦略、マーケティング、財務、商品ディスプレイ等の基本的理論や他業種の具体的な成功事例を学ぶ講座を開催し、地場産業の中核となる人材を養成する。開催については、構成団体から希望内容を確認して開催する。

・対象講座：経営戦略、マーケティング、財務諸表、商品展示等に関するもの

(2) 夏休み小学生じばさん講座

北勢地域の地場産業について学び、体験してもらうことで、将来を担う子供達に地場産業への理解を深めてもらうことを目的として実施する。

① 初級コース(4年生対象)

地場産業に関する講座と体験を行う。

講座は北勢地域の代表的な伝統的工芸品である四日市萬古焼、伊勢形紙、鈴鹿墨をはじめ、昔から地域で親しまれている伊勢茶や大矢知手延素麺・冷麦などについて学ぶ。体験については四日市萬古焼絵付け、伊勢形紙しおり彫刻などを行う。

② 上級コース（５、６年生対象）

講師（伝統工芸士等）による解説のほか、体験については四日市萬古焼の器作り、伊勢形紙色紙彫刻、日永うちわづくりなどを行う。

3 情報収集提供事業（事業費 5,754,815円）

地場産品PR事業で得た名品館売上情報（商品分類別による売上情報等）を事業者が経営に活用できるよう提供する。

ホームページ上では、四日市萬古焼、伊勢形紙、鈴鹿墨の伝統的工芸品をはじめ、伊勢茶、大矢知手延素麺・冷麦、桑名サンダル、鋳物、カメヤマローソク等の掲載の充実をはかり、地場産品に関心を持ってもらうよう努める。名品館の案内として、季節ごとのお勧め商品や人気商品等についても掲載するとともに、名品館のイベントや名古屋・東京などで実施するイベントについても情報発信を行う。

その他、国・県、三重県北勢地域の自治体や関係機関、全国の地場産業振興センターとホームページでのリンクをし、国・県の中小企業施策等や全国の地場産品に関する情報収集及び提供を行う。

4 相談指導事業（事業費 50,000円）

センターが相談窓口となって、経営者等を対象に相談を受け、相談内容（法律、労務、経営、特許、貿易等）に応じて、四日市商工会議所等への紹介・斡旋を行う。経営者等が、各専門家への相談によって問題を解決し、経営を安定させ、事業を発展させるための手助けをする。

- ・法律相談（四日市商工会議所：弁護士）
- ・労務相談（ " ：社会保険労務士）
- ・経営相談（ " ：経営相談員）
- ・特許相談（ " ：弁理士）
- ・貿易相談（ジェトロ三重貿易情報センター：専門相談員）
- ・技術相談（三重県産業支援センター：専門相談員）
- ・販路相談（ " ）

II 施設提供事業（公益目的事業2）（事業費 25,228,008円）

施設提供事業については、ホームページ、文化会館の催し物案内、四日市商工会議所の商工春秋、年2回全戸配布のチラシ等で広く周知・募集を行い、提供にあたっては、公益性の高い団体であること及び内容を確認した上で提供する。駅に近く利便性が高いことのPRに努めるとともに、多くの方が利用しやすい使用料を継続して、より一層の利用を促進する。

また、平成 26 年度から導入したインターネットによる予約受付の周知を進め、利用者の利便性向上と受付業務の効率化を図りながら、利用者増に繋げる。

提供施設 2階 研修室 4 (64 m²)

4階 研修室 1 (69 m²) 研修室 2 (53 m²) 研修室 3 (46 m²) 開発室 (46 m²) 視聴覚室 (163 m²)

5階 小研修室 (56 m²) 情報交換室 1 (41 m²) 情報交換室 2 (59 m²) 研修室 5 (103 m²)

大研修室 (183 m²)

6階 ホール (261 m²) 展示室 (183 m²) 計 13 室

(公益利用 施設使用料収益目標 13,400,000円)

Ⅲ ビジネスインキュベータ事業 (公益目的事業 3)

(事業費 14,461,258円)

インキュベートルームは、起業を目指す者を公募し、入居審査のうえ有料(安価)で貸与し事業展開を支援するもので、インキュベートルーム(約 20 m²×7室)、相談スペース、ラウンジ、インキュベータマネージャールームを備えて事業を行う。

入居者及び新たに起業を目指す者に対しては、インキュベータマネージャー(起業相談の専門家)が、適宜経営面や技術面での様々な課題に関してアドバイスをを行い、問題解決を速やかにし、多様化するニーズに対応できる支援を行う。また、財団として必要と思われるセミナーを適宜開催する。

入居者選定にあたっては、各分野の専門家を入居審査会委員とし、厳正なる審査結果の報告を受けて入居者を選定する。

Ⅳ 施設提供事業 一般利用 (収益目的事業 1)

(事業費 89,654,837円)

一般利用については、「駅至近の利便性」や「安価な使用料」であることを周知し、多くの方に利用していただくようPRに努める。

提供施設は「公益目的事業 2」と同様の研修室、会議室を貸し出すとともに、導入したインターネットによる予約受付の周知を図る。

なお、公益財団法人として「公益・収益」の区別を明確にし、しかも「収益」の中での「営業・非営業」の区別も明確にし、施設使用料の増を図って自主財源の確保に努める。

(一般利用 施設使用料収益目標 46,100,000円)

(公益利用・一般利用 施設使用料収益目標 59,500,000円)